

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2294201625		
法人名	株式会社エーアイエム		
事業所名	えいむの丘		
所在地	静岡県静岡市清水区北矢部780-2		
自己評価作成日	令和2年9月16日	評価結果市町村受理日	令和2年12月28日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

その人がその人らしく暮らせるよう、一人一人の思いや家族の思いを第一にケアを行っている。施設として大まかな時間の流れはあるが、時間や人の許す限りは一人ひとりに沿ったケアの提供を心掛けている。今年に入りコロナウイルス感染予防の為に面会制限や、外出制限を設けたが、可能な限り対策を講じ、家族とのかわりを持てる様工夫している。事業所にはiPadが3台あり、SNSを使用するのオンライン面会や、ご家族様に向けて施設での様子の配信等を行っている。18人の利用者が心地よく暮らせるよう、座席の配慮をおこなったり、施設内で行うイベントを企画している。また、正社員からパートまで職員が働きやすいよう各種休暇制度を活用したり、職員の希望に合わせて勤務時間を設定している。賞与が年3回あり職員のモチベーション向上につながっている。本年度はコロナ慰労金として厚労省よりも前に会社独自の賞与があった。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2294201625-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2294201625-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 10月 30 日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所1階には、法人運営の訪問看護ステーション・看護小規模多機能型居宅介護(デイサービス)・地域交流室が併設して、常に職員・利用者の出入りがある。事業所のある2階は、利用者一人ひとりに合わせた暮らしがりを心掛け、換気や掃除に配慮した清潔な空間作りを心掛けている。1階地域交流室でのイベントや地域行事への参加など地域住民との交流を積極的に図っていたが、新型コロナ感染防止対策として、現在は訪問・外出機会を制限している状況が続いている。定期受診の際の付き添いやSNSを活用したオンライン面会、個人情報に配慮して利用者の様子をタイムラインで送信するなど、コロナ禍の中でも、家族と関わる機会を絶やさない対応を実践している。職員の就業時間は細かく区分され、職員の家庭環境に合わせた働き方を支援する体制を整えている。食事を楽しむことができるように、宅配食と利用者の希望を取り入れた手作り食等を組み合わせている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私らしくあなたらしく」を理念に掲げ、1人1人に寄り添った介護を提供している。共同生活の中でも個人のこれまでの生活史を大切に生き生きと生活が出来る様な支援を行っている。	事業所理念を事業所内に掲示し、常に意識しながら対応している。管理者は都度声掛けを心掛け、申し送りノートや月1回ケア会議を活用して、情報の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会活動への参加や、地域住民のボランティアなどを通じ、閉鎖的な施設にならないよう取り組んだ。コロナ禍の現在は外部との交流は制限中。	事業所1階には地域交流室があり、近隣住民が利用するなど地域との関わりが深く、清水川原こども園の訪問や麻雀・体操、畑作業の手伝いなどの交流があった。現在、コロナ禍の中で活動を制限しているが、関係継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設1階にある地域交流室を近隣の方の集いの場として開放し、様々な活動を行う場として提供している。コロナ禍以前はそこで踊りやマジックショーなど地域の方々に披露して頂き、利用者楽しんでもらっていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月以降コロナウイルス感染防止の為運営推進会議は行っていない。それ以前が2ヶ月に一度開催していた。	地域包括支援センター・地域代表・家族の参加により、2か月に1回、運営推進会議を開催している。現在は、新型コロナ感染防止対策として参加者へ資料を送付し、個人情報に留意しながら、報告・意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	昨年は特に連絡を取る事項が無かったが、必要に応じて協力体制をとることができている。	事業所内の地域交流室を利用した静岡市委託事業の開催など、併設する看護小規模多機能事業所とともに、地域包括支援センター職員を通して、静岡市清水区事業に協力できる関係であり、連絡体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のケア会議時に身体拘束についてテーマをだし議論している。2階階段扉、エレベーターは事故防止の為施錠している。防犯目的で夜間は玄関扉の施錠を行っている。	身体拘束適正化委員会を3か月に1回、運営推進会議参加者の協力を得て開催している。指針・マニュアルを整備し、職員は年1回、外部研修を受ける仕組みを整えている。毎月ケア会議において、利用者への対応について話し合い、職員間の情報共有を図っている。	

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間で1名以上虐待関連の研修に参加している。現在、身体的な拘束を行っている利用者はいないが、虐待の定義を適切にとらえ、今後も虐待防止に努める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、知識を深めるよう努力している。また、学んだ知識はケア会議内で発表し職員への周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧な説明を行い、その都度質疑応答に応え、理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談窓口の案内を全員行っている。また、電話連絡時や、受診の付き添い等で会話をする機会のある時は、その都度ご家族の心配事や不安な点など様々な話を聞く様スタッフ一同心掛けている。	毎月利用者の様子を、写真をつけて報告している。コロナ禍で面会を制限する中でも、WEBを利用したオンライン面会を行っている。定期受診時の付き添いや平時では食事会開催など、家族との関わりの機会を多くすることを心掛けている。	コロナ禍で面会制限の中でも、WEBを利用した面会など工夫して対応しているが、面会機会のない家族の意見・要望を聴き取る仕組みとして、「家族アンケート」実施の検討を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改善できる点についてはスピード感を持って対処している。現場のリーダーと共に職場環境の適正化に努めている。	月1回2ユニット合同で行うケア会議などを活用し、職員の意見交換を図っている。管理者(施設長)・主任・ユニットリーダーの連絡体制を整え、常に意見交換できる環境作りに注力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回個人面談を行い、職員の自身の要望等を聞き取り、会社として職員への希望を伝えている。また、面談時だけでなく普段の現場でも職員からの意見を聞き、意見の言いやすい雰囲気づくりを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人間で別の事業所が複数あるため、その都度職員の能力に応じて移動等を打診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内の賀詞交換会には毎年出席し、他事業所との関わりを保てる様にしている。また、他事業所から転職してきた職員や、様々な経験のある職員から、良いところを吸収し取り入れるようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	聞き取りの出来る利用者であれば会話の中から本人の希望や不安なことなどを聞き取り、集団生活に早くなじめるよう声を掛ける。認知症等の理由により本人から直接の聞き取りが困難な場合はご家族に生活史を記入してきてもらいそれをもとに関係づくりを進めていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に密に連絡をとり、安心して入居が出来る様に努めている。質問や疑問、不安に思うことなどはいつでも聞けるように連絡窓口を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の相談時にご家族の要望等を伺い、当施設で対応可能なサービスであれば入居まで行い、GHでは対応しきれない場合でも法人間の別事業所の紹介等を行い、その時必要なサービスを提供できる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に全てやってあげるのではなく、本人の出来る事や、やりたい事が自分でできるような支援や声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診の際にはご家族に同行して頂くようにし、介護保険の更新申請時には認定調査への立ち合いをお願いしている。月に1度程度でも利用者の状態を見て頂き、今後の介護の方向性についても一緒に考えていけるよう状態を把握してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍以前は、本人の希望する場所や、会いたい人、面会したい人等制限を設けずに会うことが出来る様門戸を開いていたが、現在は原則として面会禁止としている。	家族・親戚の訪問や、美容院・買い物などへの外出を支援してきたが、コロナ禍の中、外出・面会の制限をしている。利用者の高齢化・入居の長期化に伴い、訪問美容やレクリエーション活動を通して、事業所や職員が馴染みの関係となるよう心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無理に仲間にしようとせず、一人1人の好みを尊重している。1人の時間を大切にしたい方には無理に関わり合いを強要しない。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時は看取りのことがほとんどなため、経過のフォローを行う機会はないが、看取り後のご家族への対応や、その後の連絡等も密に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人介護計画を立て、安心して暮らせるよう支援している。本人からの聞き取りが困難な場合はご家族やスタッフ間で検討し、本人本位な計画となる様努めている。	入居時にフェイスシートを利用して、利用者・家族の希望を把握している。日々の状態を介護日誌等に記録して利用者の意向の把握に努め、毎月のケア会議を利用して、職員の情報共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族へ、入居前までの生活史を記入してもらいシートを配布している。それを基に本人からの聞き取り等を行い、今後の生活環境の整備に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に一度ケア会議時に、その月の利用者の様子を確認し、おおまかなケアの方向性を議論し決めている。大きな変化がある場合は会議を通さず申し送りノートを活用し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方についてはケア会議時やその都度課題を見直し、介護計画書は半年に一度、介護度の変更があった場合、入退院により大きく状態が変わった時等に見直しを行い、サインをもらう。	2ユニット合同で行うケア会議では、介護日誌・介護記録をもとに利用者全員の状況について検討し、介護計画の見直しに役立てている。利用者・家族の同意を明記できるように計画書様式を変更し、介護計画変更時等に活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の流れはほぼ変わらないため、その時の本人の様子や発言した内容などを記載するように心がけている。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科、訪問医、訪問マッサージなど一人一人のニーズに対応し外部業者を活用し支援を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍の為外出する事は制限しているが、以前は地域のお店や観光地など訪問し施設内ではできない事を月一度のペースで行っていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、昔からのかかりつけ医にかかって頂くよう案内している。入居後状態が変わった場合やご希望される場合はその都度往診医のご案内等もおこなっている。	家族の協力のもと、入居前からのかかりつけ医の定期受診や他科受診を継続している。協力医の往診と併設する訪問看護により、定期的な体調管理を行っている。緊急時対応では、24Hオンコールの体制作りができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夕方に定時連絡として一日の状態報告を行っている。また、日中になにか心配な事があれば併設の訪問看護ステーションの看護師に相談し、夜勤帯も24Hオンコールなので不安なことがあれば連絡し指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院へ介護サマリーを送付している。また、病院の連携室に退院時期や状態確認などを適宜行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の変化の中で家族とは密に連絡を取り合い、状態変化した場合のご家族の希望や、ご本人の思いの橋渡しを行っている。また、看取りの場合には往診医への切り替えのご案内なども行っている。	入居時に「重度化対応・終末期(看取り)ケア対応指針」を利用者・家族へ説明し、事業所での対応について同意を得ている。重度化した際には、併設の訪問看護ステーションと連携する体制作りができています。職員は、定期的な外部研修に参加し、緊急時の対応を心得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低限の初期対応、訓練を行っている。また、予兆のある場合は事前に看護師、家族と相談し、対応する準備を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行い、様々な想定でも最善の対応が出来る様訓練している。	年2回(9月・12月)、併設事業所と合同で火災・夜間想定訓練を行っている。平時には、地域住民の参加を得て、アドバイス等を受けていた。備蓄品は、事務所倉庫に1週間分を目途に備え、発電機は訓練の際、試運転を行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他人行儀になり過ぎず、個々を尊重した対応を心掛けている。また、無理にリビングにいてもらわず、1人の時間を大切にしたい方にはお部屋での指間を過ごして頂いたり、個人を大切にしている。	個人情報・プライバシー保護等について、職員が入社する際に説明し、同意を得ている。管理者(施設長)やユニットリーダーは、利用者への対応の課題についてケア会議で取り上げ、また都度注意するよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で決められる方には基本的には自分で決定してもらい、それが難しい方には、選択肢をいくつか用意しその中から選んでもらったりして本人の思いを引き出せるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の在所年数が長く、ほとんどの方が一日の流れを把握しその中で自由に過ごしている。会話の中で聞かれた希望があれば実現できるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	長い髪が好きな方は生活に邪魔にならないように結ったり、いきつけの美容院のあった方はそちらに通うことが出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いや食器拭きなど手伝ってもらっている、一緒に台所に立ち家事を行っている	平日昼・夜は宅配食を利用しているが、日曜日の食事は、利用者の希望を聞き、好みの献立を手作りや外食で楽しむ機会を設けている。季節ごとにお菓子(和菓子)作りを行い、利用者の様子を写真に撮り、事業所タイムラインで送信している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人にあった食事量水分量を把握し、毎日記録を行っている。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている、自分でやるのが難しい方には職員が解除している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンを確認し適宜声掛けしトイレ誘導、介助をおこなっている。	「排泄記録」にて、一人ひとりの様子を観察しながら、トイレへの誘導を支援している。ポータブルトイレ利用は、夜間のみ利用者がいるが、安全のためナースコールを使用して、職員の介助対応を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分と栄養バランスに気を付けた食事を提供し、体操等の運動を行っている。 必要であれば主治医と相談の上、薬での調整を行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日6～9名の方が入浴をしている。その方の希望に出来る限り浴う形で入浴順や入浴の仕方を決め支援している	週3回を目途に、利用者の希望に合わせて入浴支援をしている。利用者の体調・状態に合わせ、安全等に配慮したりフト浴も備えている。季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯など、入浴を楽しむ工夫を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間、起床時間を設定せず、一人一人のタイミングで生活してもらうよう心掛けている。昼夜逆転になってしまう場合等はご本人の気持ちや体調を尊重しながら、起床時間や休息の時間を考え過ぎてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の担当者を決め、管理と配役、ご家族との連携を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活史や、嗜好をふまえ日々の生活の中で一緒に活動できるものは取り組むようにしている。		



静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在感染対策のため、緊急時以外の外出はおこなっていない	コロナ禍の中、外出制限をしているが、定期受診の外出時には、家族の協力を得て通院し、数少ない面会・外出機会となっている。平時には、花見やお祭り(大沢川提灯祭り)などへ出掛けていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として、本社事務にてお金を預かっている、欲しい物や買いたいものがある場合はそこから出し買い物の際に購入するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書いたハガキや手紙など職員がポストに投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除はまめに行っている。壁絵や製作物など季節に応じて利用者と一緒に製作している。	衛生管理に努め、換気・加湿器利用・こまめな掃除の実施(朝・昼・夜)を心掛けている。2ユニットの中央にリビング・キッチンがあり、リビングには、大きなソファが置かれている。起床後は、リビングで過ごす利用者が多く、好みの場所でくつろぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が隣になったり、逆に合わない人通しがお互いに気持ちよく過ごせるよう石筍棟には配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際になじみの家具などを持ち込んでもらい自分だけの空間になる様工夫している。	エアコン・クローゼットが造り付けの居室は、入居時に馴染みの家具を持ち込み、利用者好みの部屋作りを支援している。起床後は換気を行い、季節ごとの衣替えや加湿器利用など、健康に配慮した支援を心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室などがわかりやすいように名札を付けたり案内を貼っている。また生活動線には出来る限り物を置かないよう配慮している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201625		
法人名	株式会社エーアイエム		
事業所名	えいむの丘		
所在地	静岡県静岡市清水区北矢部780-2		
自己評価作成日	令和2年9月16日	評価結果市町村受理日	令和2年12月28日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人がその人らしく暮らせるよう、一人一人の思いや家族の思いを第一にケアを行っている。施設として大まかな時間の流れはあるが、時間や人の許す限りは一人ひとりに沿ったケアの提供を心掛けている。今年に入りコロナウイルス感染予防の為に面会制限や、外出制限を設けたが、可能な限り対策を講じ、家族とのかわりを持てる様工夫している。事業所にはiPadが3台あり、SNSを使用しているオンライン面会や、ご家族様に向けて施設での様子の配信等を行っている。18人の利用者が心地よく暮らせるよう、座席の配慮をおこなったり、施設内で行うイベントを企画している。また、正社員からパートまで職員が働きやすいよう各種休暇制度を活用したり、職員の希望に合わせて勤務時間を設定している。賞与が年3回あり職員のモチベーション向上につながっている。本年度はコロナ慰労金として厚労省よりも前に会社独自の賞与があった。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2294201625-00&ServiceCd=320](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2294201625-00&ServiceCd=320)

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 10月 30 日		

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私らしくあなたらしく」を理念に掲げ、1人1人に寄り添った介護を提供している。共同生活の中でも個人のこれまでの生活史を大切に生き生きと生活が出来る様な支援をお行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会活動への参加や、地域住民のボランティアなどを通じ、閉鎖的な施設にならないよう取り組んだ。コロナ禍の現在は外部との交流は制限中。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設1階にある地域交流室を近隣の方の集いの場として開放し、様々な活動を行う場として提供している。コロナ禍以前はそこで踊りやマジックショーなど地域の方々に披露して頂き、利用者楽しんでもらっていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月以降コロナウイルス感染防止の為運営推進会議は行っていない。それ以前が2ヶ月に一度開催していた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	昨年は特に連絡を取る事項が無かったが、必要に応じて協力体制をとることができている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のケア会議時に身体拘束についてテーマをだし議論している。二回階段扉、エレベーターは事故防止の為施錠している。防犯目的で夜間は玄関扉の施錠を行っている。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間で1名以上虐待関連の研修に参加している。現在、身体的な拘束を行っている利用者はいないが、虐待の定義を適切にとらえ、今後も虐待防止に努める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、知識を深めるよう努力している。また、学んだ知識はケア会議内で発表し職員への周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧な説明を行い、その都度質疑応答に応え、理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談窓口の案内を全員行っている。また、電話連絡時や、受診の付き添い等で会話をする機会のある時はその都度ご家族の心配事や不安な点など様々な話しを聞く様スタッフ一同心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改善できる点についてはスピード感を持って対処している。現場のリーダーと共に職場環境の適正化に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回個人面談を行い、職員の自身の要望等を聞き取り、会社として職員への希望を伝えている。また、面談時だけでなく普段の現場でも職員からの意見を聞き、意見の言いやすい雰囲気づくりを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人間で別の事業所が複数あるため、その都度職員の能力に応じて移動等を打診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内の賀詞交換会には毎年出席し、他事業所との関わりを保てる様にしている。また、他事業所から転職してきた職員や、様々な経験のある職員から、良いところを吸収し取り入れるようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	聞き取りの出来る利用者であれば会話の中から本人の希望や不安なことなどを聞き取り、集団生活に早くなじめるよう声を掛ける。認知症等の理由により本人から直接の聞き取りが困難な場合はご家族に生活史を記入してきてもらいそれをもとに関係づくりを進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に密に連絡をとり、安心して入居が出来る様に努めている。質問や疑問、不安に思うことなどはいつでも聞けるように連絡窓口を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の相談時にご家族の要望等を伺い、当施設で対応可能なサービスであれば入居まで行い、GHでは対応しきれない場合でも法人間の別事業所の紹介等を行い、その時必要なサービスを提供できる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に全てやってあげるのではなく、本人の出来る事や、やりたい事が自分でできるような支援や声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診の際にはご家族に同行して頂くようにし、介護保険の更新申請時には認定調査への立ち合いをお願いしている。月に1度程度でも利用者の状態を見て頂き、今後の介護の方向性についても一緒に考えていけるよう状態を把握してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦以前は、本人の希望する場所や、会いたい人、面会したい人等制限を設けずに会うことが出来る様門戸を開いていたが、現在は原則として面会禁止としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無理に仲間にしようとせず、一人1人の好みを尊重している。1人の時間を大切にしたい方には無理に関わり合いを強要しない。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時は看取りのことがほとんどなため、経過のフォローを行う機会はないが、看取り後のご家族への対応や、その後の連絡等も密に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人介護計画を立て、安心して暮らせるよう支援している。本人からの聞き取りが困難な場合はご家族やスタッフ間で検討し、本人本位な計画となる様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族へ、入居前までの生活史を記入してもらいシートを配布している。それを基に本人からの聞き取り等を行い、今後の生活環境の整備に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に一度ケア会議時に、その月の利用者の様子を確認し、おおまかなケアの方向性を議論し決めている。大きな変化がある場合は会議を通さず申し送りノートを活用し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方についてはケア会議時やその都度課題を見直し、介護計画書は半年に一度、介護度の変更があった場合、入退院により大きく状態が変わった時等に見直しを行い、サインをもらう。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の流れはほぼ変わらないため、その時の本人の様子や発言した内容などを記載するように心がけている。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科、訪問医、訪問マッサージなど一人一人のニーズに対応し外部業者を活用し支援を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍の為外出する事は制限しているが、以前は地域のお店や観光地など訪問し施設内ではできない事を月一度のペースで行っていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、昔からのかかりつけ医にかかって頂くよう案内している。入居後状態が変わった場合やご希望される場合はその都度往診医のご案内等もおこなっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夕方に定時連絡として一日の状態報告を行っている。また、日中になにか心配な事があれば併設の訪問看護ステーションの看護師に相談し、夜勤帯も24Hオンコールなので不安なことがあれば連絡し指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院へ介護サマリーを送付している。また、病院の連携室に退院時期や状態確認などを適宜行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の変化の中で家族とは密に連絡を取り合い、状態変化した場合のご家族の希望や、ご本人の思いの橋渡しを行っている。また、看取りの場合には往診医への切り替えのご案内なども行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低限の初期対応、訓練を行っている。また、予兆のある場合は事前に看護師、家族と相談し、対応する準備を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行い、様々な想定でも最善の対応が出来る様訓練している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他人行儀になり過ぎず、個々を尊重した対応を心掛けている。また、無理にリビングにいてもらわず、1人の時間を大切にしたい方にはお部屋での指間を過ごして頂いたり、個人を大切にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で決められる方には基本的には自分で決定してもらい、それが難しい方には、選択肢をいくつか用意しその中から選んでもらったりして本人の思いを引き出せるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の在所年数が長く、ほとんどの方が一日の流れを把握しその中で自由に過ごしている。会話の中で聞かれた希望があれば実現できるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	長い髪が好きな方は生活に邪魔にならないように結ったり、いきつけの美容院のあった方はそちらに通うことが出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いや食器拭きなど手伝ってもらっている、一緒に台所に立ち家事を行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人にあった食事量水分量を把握し、毎日記録を行っている。		



静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている、自分でやるのが難しい方には職員が解除している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンを確認し適宜声掛けしトイレ誘導、介助をおこなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分と栄養バランスに気を付けた食事を提供し、体操等の運動を行っている。 必要であれば主治医と相談の上、薬での調整を行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日6～9名の方が入浴をしている。その方の希望に出来る限り浴う形で入浴順や入浴の仕方を決め支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間、起床時間を設定せず、一人一人のタイミングで生活してもらうよう心掛けている。昼夜逆転になってしまう場合等はご本人の気持ちや体調を尊重しながら、起床時間や休息の時間を考え過ぎてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の担当者を決め、管理と配役、ご家族との連携を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活史や、嗜好をふまえ日々の生活の中で一緒に活動できるものは取り組むようにしている。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在感染対策のため、緊急時以外の外出はおこなっていない		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として、本社事務にてお金を預かっている、欲しい物や買いたいものがある場合はそこから出し買い物の際に購入するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書いたハガキや手紙など職員がポストに投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除はまめに行っている。壁絵や製作物など季節に応じて利用者と一緒に製作している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が隣になったり、逆に合わない人通しがお互いに気持ちよく過ごせるよう石筍棟には配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際になじみの家具などを持ち込んでもらい自分だけの空間になる様工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室などがわかりやすいように名札を付けたり案内を貼っている。また生活動線には出来る限り物を置かないよう配慮している。		